



震旦館

シン
タン

名称

震旦館

テーマ

中華の玉文化 新しい都市スタイルを演出

ロケーション

浦西万博会場 Dエリア

敷地面積

3000平方メートル

完成予定

2009年9月末完成、

12月末展示ディスプレイ作業終了



パビリオンの解説

パビリオンのインスピレーションは儒教の祖である孔子の思想から得たという。孔子は玉には11の美徳があると考えていた。後世の人はそれを「仁、義、礼、智、信」の五徳にとまとめた。パビリオンは人間の美徳としての「仁愛、義理、礼儀、知恵、信用」を都市のニュースタイルへと推し広め、上海万博のテーマ「ベターシティ、ベターライフ」を示す。

建築の特徴

「安全、洗練、エコ」を原則に、パビリオン全体はエコ建築材料、設備、省エネ照明などを採用し、「中華の玉文化 新しい都市スタイルを演出」という理念を伝える。

展示ポイント

20分間のショーを通して創意溢れる手法で「生き生きとして、興味深く、わかりやすく」8000年にも

City Jade Culture in Aurora Pavilion

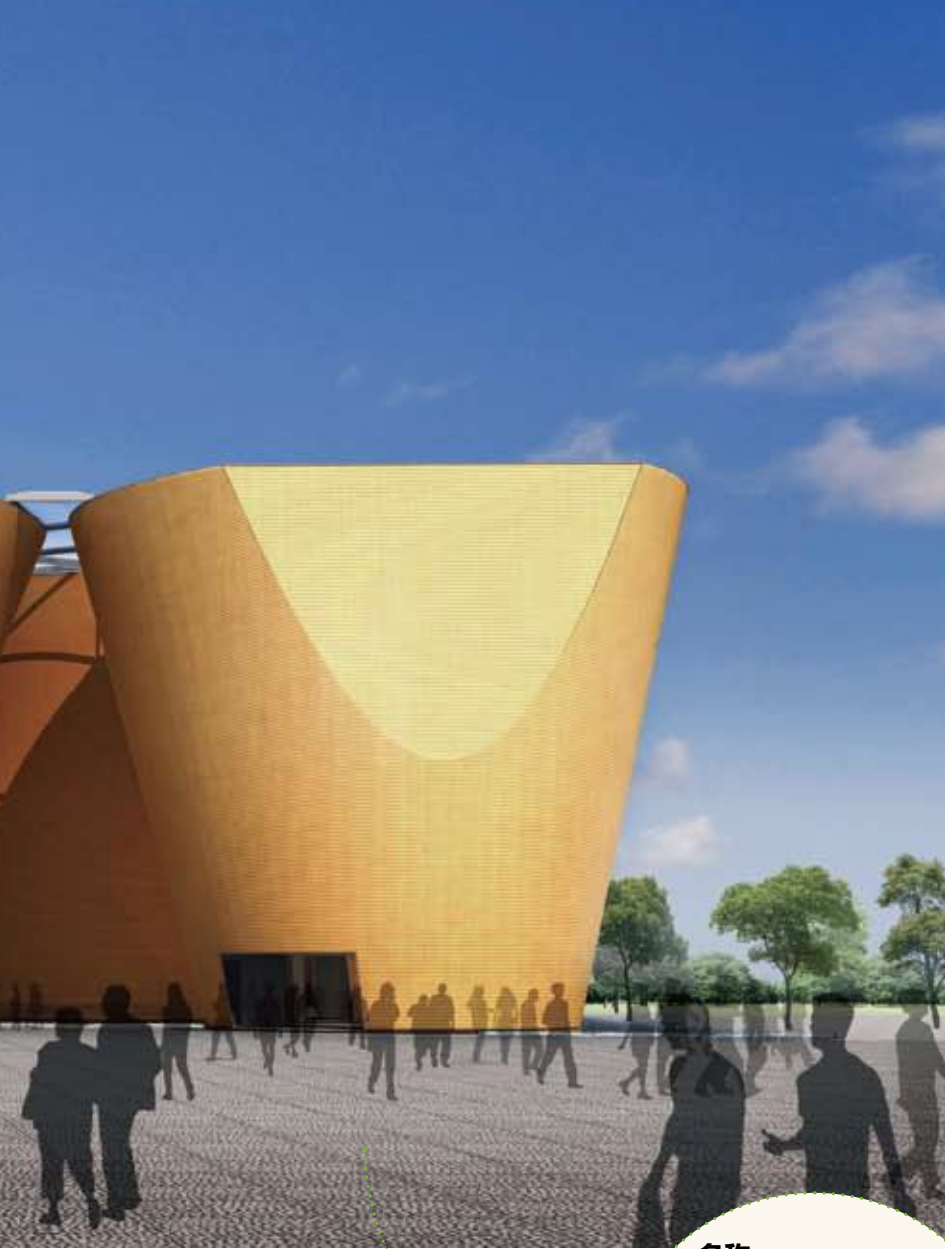


及ぶ中華玉文化を展示する。

ハイライト

展示内容は、異なるテーマ・セクションによりディスプレイされる。たとえば、屋上に6500年余の歴史を持つ紅山玉人をモデルに高さ6メートルの模型が置かれ、時空劇場では、3D映画が美しい神話「女媧（にょか）補天（天を繕う）」を物語り、ハイテク手段を駆使して、震旦博物館所蔵の30点余の玉器をすべての来場者に明示する。それらは紅山文化（紀元前4700年頃から紀元前2900年頃中国の万里の長城より北方に存在した新石器時代の文化）から清朝までの各時期の名作だ。最後に見学者は至近距離で1962年に完成した重さ25トンの玉製巨大作品や2008年北京オリンピックピックの翡翠を埋め込んだ金メダルなども鑑賞できる。

見学者は全見学過程で、視覚、聴覚を満足させられ、また古代玉器のフォルムやパターン、進化し続ける玉器文化の美的な意義を考えさせられるだろう。



バン
カ

万 科 館

未来を目指して

名称
2049
テーマ
尊重の可能性
ロケーション
浦西万博会場
敷地面積
2553平方メートル

パビリオン外観の解説

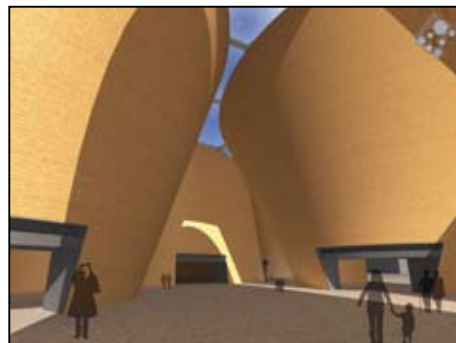
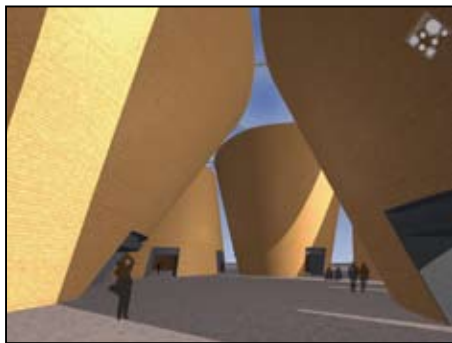
中国の不動産業界最大手である万科集団が独自に建設する企業館は、黄金の麦わら積みイメージした七つの建物が健康と生命の活力を示す。これが上海万博万科館の全体造型である。パビリオンは天然の麦わらボードを建築材にし、七つの独立した筒状の建物からなり、トップは青色のフッ素樹脂の膜で一体につなげられ、周りは1000平方メートルを超える水に囲まれている。来場者にここで自然とのふれあいを楽しんでもらう。

建築の特徴

麦わらからできたボードはこのパビリオンのメイン建材である。また、熱圧と風圧という自然換気システムを通して、最大限に自然通風を実現させ、エアコンの使用時間を短縮させる。同時に、各筒状建物のトップに嵌められた青色のフッ素樹脂の膜でできた天窗は、自然採光照明の役割を果たし、照明用エネルギーの消費を低減する。

展示ポイント

万科館は「2049」と命名されている



る。2049年は新中国建国100周年
という記念すべき年であり、来場者に未
来の中国への関心を深めてもらう狙いだ。
2049年は人の未来を意味し、一つの
都市、国ないし地球の未来も意味する。
同時に、未来へ向かう道のりも象徴し、
無限の可能性を潜めている。

このような背景のもと、展示は五つの
物語を通して構成され、人、自然、都市
が相互尊重をし、調和の取れた発展を実
現していくことを来場者に語りかけ、不
動産業界の未来的な発展方向である住宅
の工業化への論議・模索・実践を導き出す。

ハイライト

パビリオンに入ると、ファンタスティッ
クな旅が始まる。ここでは五つの「尊厳」
に関する物語を体験できるのだ。

シロアリの巣作りはバイオニクス建築に
啓発をもたらし、水物語は自然の贈り物
を大切にすることを戒め、砂嵐物語は人
類に自分の選択で自然の平衡を保つこと
の重要性を説明し、ごみ物語は都市生活
においては自然生態を尊重しなければなら
ないことを示し、金糸猴（中国特有のサル）
物語は人類と自然との相互尊重と平和共
生の美しいビジョンを描いている。